コロナ禍のコミュニケーションを学ぶ

女性医師・歯科医師の会が講演

女性医師・歯科医師の会は5月22日、吉川左紀子氏（京都芸術大学学長）を講師に迎え、講習会「心理学から見たマスク生活でのコミュニケーション」をWEB併用で開き、全国から会員など55人が参加した。

マスク生活下でのコミュニケーションについて講演する吉川氏＝5月22日、M＆Dホール

吉川氏は、結核病棟で働く看護師から、常時N95マスクを着用した患者とのコミュニケーションに支障があるのではないかとの指摘を受けて行った調査を紹介した。調査は、「マスクなし」と「マスクあり」で同じ会話や動作をする看護師の収録映像を患者に見てもらい、看護師の印象や評価をする方法で行う。微笑などのプラスの表情・伝達だけでは患者の評価は低くなるが、心を込めた声掛けにより、評価が高くなる結果となったと説明。

コロナ禍でマスク生活が長引く今、マスク姿による表情の読み取りにくさを補う方法として「ユマニチュード」の技法を紹介。フランスのイヴ・ジネスト氏らが考案し、介護が必要な患者に対するケアの考え方をいう。「見る（水平に正面から目を見つめる）・話す（穏やかに、優しくポジティブな言葉で話しかける）・触れる（広い面積でゆっくり触れる）」を柱とした、『人間らしさを大切にする技法』によって、マスク生活下であっても良好な人間関係が構築できると強調した。

（城東区・廣西賀子）

歯科拾い読み

違法行為日常的か　浜松・歯科衛生士法違反容疑逮捕　背景に業界事情／静岡新聞5月13日

歯科助手に歯石の除去などの歯科衛生士業務を行わせたとして、歯科衛生士法違反容疑で歯科医師らが逮捕された事件を報じた。

歯科衛生士等の業務範囲については、保団連が発行する「デンタルスタッフのための歯科保険診療ハンドブック（2017年版）」で解説している。

本部の「審査基準」へ統一

前回、「歯科の審査はほぼコンピュータに依存」と指摘した。では、実際にその審査の結果はどうなっているのだろうか。支払基金の統計資料から具体的にみてみよう。

16年ピークに減少

表①は、2012年度から19年度までの全国と大阪の減点金額の状況である。全国では、年々査定額が増え、ピークは16年度の約7億4千万円である。大阪も同様な傾向でピークの16年度は約4千万円となっている。

支払基金は、18年度以降は都道府県毎の結果を公表しなくなった。しかし、大阪も全国と同じように下降していると想定される。

なお、17年度以降から減点額が減少しているが、だからといって、審査が甘くなったわけではない。支部間の審査差異の解消を目的として、支部ごとの「点検条件」（職員の審査事務で疑義付せんを貼付する項目）を順次廃止、本部の「点検条件」（審査基準）に統一していることの現れと思われる。

裏返して言えば、支部はこれまで過剰な減点をしていたと言うことだ。

支部間にばらつき

表②は、2017年度の全国及び主要支部の1件あたり平均点数及び請求1万点あたりの減点点数の比較である。

これをみると、平均点数と減点点数の間には何の法則性もない。歯科医師は医学的知識と裁量でもって診療し、審査委員は医学的知識・臨床経験と裁量によって審査をする。したがって、支部間に相異があってなんら不思議ではない。

ただし、支部間のばらつきが大きいのが歯科の特徴だ。例えば、表にはないが、奈良は平均点数1105点で請求1万点あたりの減点が87・2点（全国上位から2番目）、滋賀は平均点数が1076点で同減点が72・5点（同4番目）とどうみても突出している。

この背景には、支部における過去の減点の傾向あるいは歯科医療顧問の指導が影響していると思われる。

（つづく）

支払基金〝改革〟の行方⑤

フリーライター　橋本　巌
（元大阪府支払基金職員）

表①減点　歯科の減点金額の推移

年度	全国	大阪
2012	49.8	1.8
2013	57.6	2.3
2014	63.9	2.9
2015	71.9	3.4
2016	73.7	4.2
2017	71.9	3.8
2018	69.4	―
2019	66.7	―

単位は千万円
2018年度以降都道府県別は非公表

表②全国及び主要支部別1件当たり平均点数並びに請求1万点当たり減点数（2017年度）

支部	平均点数	1万点当たりの減点
全国	1,176	38.9
北海道	1,435	43.5
東京	1,140	32.8
神奈川	1,186	36.0
愛知	1,157	38.7
大阪	1,331	32.0
兵庫	1,239	51.2
福岡	1,276	26.5

2021年夏季特集号　投稿を募集

新聞部は、夏季特集号（8月15日付）への会員投稿（原稿・写真）を募集しています。原稿は、600字以内で、テーマは①趣味②日常の臨床③夏の思い出④エッセイ・川柳・俳句――など。顔写真を同封して応募してください。応募は、郵便やファクスで協会事務局まで。7月18日必着。掲載者には薄謝進呈。

【送付先】〒556―0021大阪市浪速区幸町1―2―33／ファクス06―6568―7731

傷病への備え
休業保障制度
募集期間：5月26日～9月14日
加入日：2021年12月1日

老後への備え
保険医年金
募集期間：4月1日～6月25日
責任開始日：2021年9月1日

従業員も安心
労働保険事務組合
随時受付

入って安心！保険医協会の共済制度
お問い合わせは共済部（TEL06-6568-7438）まで

歯学研究が開く歯科の未来④　最先端の研究で〝骨を守り、骨を創る〟

大阪大学大学院歯学研究科
生化学教室
教授　西村　理行

未曽有の超高齢社会と少子化により、歯科医療が劇的に変貌しています。特に齲蝕から歯周疾患へ治療の軸足が移り、骨を含めた歯周組織の維持が重要な課題です。私たちの研究室では骨吸収の抑止と骨形成の賦活化を追求し、最先端の基礎研究を社会実装に繋ぐことを目指しています。

RANKLシグナル

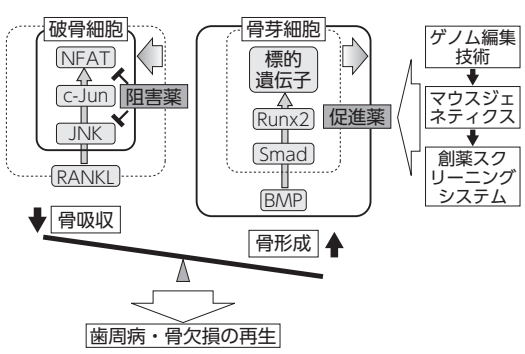
破骨細胞の分化、機能及び生存を促すタンパク質としてRANKLが同定され、そのヒト型抗体、デノスマブが骨吸収阻害剤として開発、上市されています。デノスマブの副作用として顎骨壊死があることを鑑みて、私たちはRANKLの細胞内でのシグナルを特異的に阻害するメカニズムの解明に取り組み、JNK、c-Jun、さらにNFATというタンパク質がRANKLの機能を担うことを明らかにしました。またJNKやNFATに作用する阻害剤が、破骨細胞の分化と骨吸収を抑制し、その細胞死を誘導することを証明しています。この研究成果を、歯周疾患に対する有効な骨吸収阻害剤の開発に結びつけることを目指しています。

BMPの作用機序

骨を形成する増殖因子やサイトカインが発見されていますが、異所性に骨形成を促すことができるタンパク質はBMPと呼ばれる骨形成因子だけです。BMPは骨芽細胞の分化を促し、強力な骨形成作用を発揮します。意外なことにBMPはヒトへの効果は非常に弱く、その理由も不明です。そこで私たちは、BMPの細胞内での作用メカニズムを探索し、Smadファミリーと呼ばれるタンパク質を発見し、Smadが骨形成に必須な転写因子Runx2と密接に連携することを明らかにしました。さらにRunx2によって作り出され、骨形成に必要な遺伝子の発見にも成功しました。現在、これらの知見を活用して骨形成を促進する創薬を展開しています。

ゲノム編集技術と創薬

私たちの研究室では、ゲノム編集技術を用いて最先端のマウスジェネティックス技術を確立しています。この技術を応用して、特定の遺伝子に目印を導入したノックインマウスを作製し、創薬スクリーニングシステムの開発に成功しています。この技術開発により、創薬が革新的変貌を遂げつつあります。基礎研究のさらなる深化と医療応用への加速化が歯科医療の発展に繋がると確信して、研究の推進に邁進しています。



基礎研究により創薬シーズを育み、最新の創薬スクリーニングシステムにて特異的な骨吸収阻害薬と骨形成促進薬の開発へと社会実装を紡ぎ、歯科医療の発展に貢献する。